

第32回（平成25年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校低学年の部＞応募総数：54

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	足摺岬小学校	2年	切詰 小蒔	「メガネをかけたら」を読んで思ったこと
優 秀	三崎小学校	2年	野村さくら	「花さき山」を読んで
	下川口小学校	1年	公文 匠	「クモのいと」をよんで
入 選	清水小学校	1年	山中さつき	10ぴきのかえるのおしょうがつ
	下川口小学校	1年	森 みなみ	「いいものひろった」をよんで
	幡陽小学校	1年	西村 紅愛	「おじいちゃんのごらくごらく」をよんで
	下ノ加江小学校	2年	山本 羽胡	「おなかのなかのなかのなか」
	清水小学校	2年	門原 利佳	「ふしぎなキャンディーやさん」

【審査評】

- ・自分の言葉で本を読んで感じたことや考えたことを一生懸命書き表そうとする作品が多く、好感が持てた。
- ・物語だけでなく色々な分野の本を読んでおり、読書の幅の広がりを感じた。
- ・学校での友達との関わりや体験などをおりませながら書かれている感想文からは個性がうかがえた。
- ・内容が感想文の本題から離れすぎないようにしたい。
- ・文字や句読点、表記上の誤りが気になったので、応募前の点検をお願いしたい。

第32回（平成25年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校中学年の部＞応募総数：51

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	幡陽小学校	4年	岡佳音	「津波は怖い」を読んで
優秀	下ノ加江小学校	4年	池飛羽	自然を大切に
	下川口小学校	3年	鈴川佳乃子	「あめんぼがとんだ」を読んで
入選	清水小学校	4年	横山夏鈴	人間とは
	足摺岬小学校	4年	太田真乃介	「マナティーはやさしいともだち」を読んで
	幡陽小学校	4年	白川鯉太郎	「ゾウの森とポテトチップス」を読んで
	足摺岬小学校	3年	川久保和	「忘れても好きだよおばあちゃん」を読んで
	足摺岬小学校	4年	福山修都	「わたしのとくべつな場所」を読んで

【審査評】

- ・4年生の作品がしっかり書けたものが多かった。
- ・あらすじが主な内容になってしまい、自分の思いが十分に書けていない作品があった。
- ・本の内容との関わりが薄く、自分の体験のほうが多くなったものもあり、バランスのとれた作品になるとよい。
- ・誤字、脱字、表記の間違い。
- ・素直な気持ちが表れた子どもらしい表現の作品になったものに、読者の心が引かれる。

第32回（平成25年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校高学年の部＞応募総数：42

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	足摺岬小学校	6年	福山 七瀬	「だいじょうぶ3組」を読んで
優 秀	幡 陽 小 学 校	6年	中村 徹弥	『シマが基地になった日』を読んで
	足摺岬小学校	5年	永野 涼花	「火垂るの墓」を読んで
入 選	清 水 小 学 校	5年	角田 七海	長生きする
	清 水 小 学 校	5年	酒井 萌	生物への愛情
	下ノ加江小学校	5年	浜崎 花	「空へ続く神話」を読んで
	幡 陽 小 学 校	5年	岡林美乃理	「永遠に捨てない服が着たい」
	足摺岬小学校	6年	田村 寿珠	「ひまわり」を読んで

【審査評】

- ・ 指定のページ数の不足とオーバーの作品あり。
- ・ 改行が多い。
- ・ ストーリーの説明のみに終わっている作品が多い。
- ・ 高学年としての作品の選定を意識してほしい。
- ・ 誤字、脱字の多さあり、ていねいに書かすことの指導の徹底を。

第32回（平成25年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜中学校の部＞応募総数：16

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水中学校	2年	浅野 成美	「ランナー」走るとは
優 秀	清水中学校	2年	井田あゆ美	障害者を見つめる
	清水中学校	2年	浅野 麻衣	「県庁おもてなし課」を読んで
入 選	清水中学校	3年	中久保真恋	カラフルを読んで
	清水中学校	3年	眞濱 葵	永遠の0を読んで
	清水中学校	2年	岡田万梨咲	『奇跡のリンゴ』を読んで
	清水中学校	2年	坂下麻奈佳	「リキシャ★ガール」から
	清水中学校	2年	生原 杏	記憶の暗闇から・・・

【審査評】

- ・構成も優れていて、発達段階に応じた表現をしている。
- ・また、著者の主旨を十分理解していて、自分の思いや考え方を的確に表現していた。

第32回（平成25年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜高等学校の部＞応募総数：4

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水高等学校	3年	武田 華蓮	塩狩峠を読んで
優 秀	清水高等学校	3年	宮本 拡	博士の愛した数式を読んで
	清水高等学校	2年	岡田 朱里	ホワ物語を読んで
入 選	清水高等学校	1年	細川 明李	今日の日はさようなら

【審査評】

- ・新鮮な驚きが自分の言葉で表現されていた。
- ・作品が語りかけてくるものを、自分の体験とてらしあわせて考えている姿勢に好感をもった。